

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800610
法人名	有限会社 桜の里
事業所名	グループホーム 桜の里
所在地 (電話番号)	度会郡玉城町矢野139-3 (電話) 0596-58-8288
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 2 月 25 日(月)

【情報提供票より】 (H20年2月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 2 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無 5年間	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4)利用者の概要(2月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	4 名	要介護4	3 名			
要介護5	名					
要支援2	名					
年齢	平均	88 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神戸クリニック 玉城病院 久瀬医院 中島医院 ささき歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

保育園、小学校に近く田園を見渡せる地にデイサービスと併せ建てられた玉城町唯一のグループホームである。建家はログハウス調の木の温もりを感じさせる落ち着いた造りである。職員は運営者の理解の下、学び、協力しあって、輝いて共に生活することを理念の幹にし、より質の高い支援を目指している。また、利用者も生き生きとした表情の見られる明るい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価改善項目(ヒヤリハット記録の活用)は検討され改善済みである。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は運営者の理解の下、管理者及び全職員が参画して纏められている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>隔月に開催されており、直近では1月に第11回目が催されている。会議は民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員、提携医、利用者及び家族代表、を外部メンバーとして現況報告、事故報告、並びに運営上の意見交換等行なわれている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に相談・苦情窓口及び担当者並びに町役場の窓口を明示している。また玄関に相談箱を設置している。更に職員は家族来所時に会話を多く持ち意見要望に対応するよう心掛けている。受けた意見苦情は「苦情受付処理報告書」に記載し対処している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は自治会に加入し、町内のお祭りや地域のボランティア活動に参加したりしている。また地域住民に事業所の「さつき祭り」や「介護勉強会」に参加してもらったりしている。学童たちが気軽に立ち寄れるよう「通学時の見守りや声かけ」を検討されているが、その早期実施と更に一層の地域住民と共に支え合う環境作りが望まれる。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛・・・希望・・・楽・・・めざめ・・・なごみ・・・、いつも笑顔・・・」のある生活を共にし、学び、協力しあって・・・お互いが「こころ・わくわく」する人生をめざすことを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務室及び玄関に掲示し、更に入居時の説明や「お便り」を通じて家族等も周知している。また、管理者、職員は日々のミーティングや月例会議等機会あるごとに話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し、町内のお祭りや地域のボランティア活動に参加したりしている。また地域住民に事業所の「さつき祭り」や「介護勉強会」に参加してもらったりしている。	○	利用者は事業所の前を通る学童たちと手を振り合うことを毎日の楽しみとしている。学童たちが気軽に立ち寄れるよう「通学時の見守りや声かけ」を検討されているが、その早期実施と更に一層の地域住民と共に支え合う環境作りを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は運営者の理解の下、管理者及び全職員が参画して纏められている。また、昨年の外部評価改善項目（ヒヤリハット記録の活用）は検討され改善済みである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催されており、直近では1月に第11回目が催されている。会議は民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員、提携医、利用者及び家族代表を外部メンバーとして現況報告、事故報告、並びに運営上の意見交換等行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を毎月受け入れている。また、地域包括支援センターの要請を受け「認知症サポーター養成講座」の講師派遣と実習受け入れを行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真入りで利用者の暮らしぶりや健康状態を家族に報告し、お小遣い帳も確認してもらっている。また、2ヶ月ごとの家族会等来所時に適宜報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談・苦情窓口及び担当者並びに町役場の窓口を明示している。また玄関に相談箱を設置している。更に職員は家族来所時に会話を多く持ち意見要望に対応するよう心掛けている。受けた意見苦情は「苦情受付処理報告書」に記載し対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者及び全職員が利用者一人ひとりと馴染むよう努めていると共に移動後も顔出しをし係わりを持つようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、全職員が県、町や県社協主催の各種講習会等に順次参加できるよう毎月の勤務予定表に組み込んでいる。それら内容は所内勉強会で周知している。また各種資格取得等自己啓発を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉城町地域サービス向上連絡会、玉城町福祉祭りに参加したり県下のグループホーム連絡協議会の勉強会、見学会、報告会等に参加し交流の輪を広げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	生活状況の聞き取りや、家族との面談を経て、見学や数日間の体験入居で安心感をもって利用できる雰囲気理解してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩であるとの尊厳の気持ちで接し、利用者が大切にしてきた家事の仕方やしつけなどを話してもらい、常に「ありがとう」の言葉を忘れず支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのアセスメント記録や日々の暮らしから生活歴や経験並びに意向の把握に努め、本人自身のペースでリクリエーションに参加してもらったり、趣味を生かした生活等希望を聞き入れた対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、主治医等からの意見並びに職員のモニタリングや意見交換をもとに課題を探り出し全員参加の介護計画としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行い、家族の同意を得ている。利用者の状態に応じては本人、家族及び職員等の意見をもとに随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、職員は通院や一時帰宅、ショッピング等への送迎をして柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医での受診を継続すると共に事業所の協力医とも連携した対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人及び家族、かかりつけ医、職員の話合いを持ち事業所ができる最大の支援を提供できるよう努めている。	○	事業所としての方針を職員と確認し、利用開始時から早い時期に本人、家族の意向を確認する体制と対応指針を検討されることを期待する。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに、尊敬を込めた言葉遣いで接しており、また来所者への対応や個人記録等書類の取扱いには気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮し、その日その時々々の本人の気持ちを尊重し、出来る限り希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、片付け、食器洗い等利用者と共にこなしている。また職員も同じテーブルを囲み、話しかけをし和やかな雰囲気です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日々、一人ひとりに声かけし希望の時間の入浴を支援すると共に不安や抵抗を軽減し楽しめるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ごみ出し、洗濯物たたみ、繕い物、配膳食器洗い、畑仕事、お茶点等役割を持ってもらい、職員は感謝の言葉かけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭での畑仕事、日光浴や近隣の田園、神社等への散歩を行なう他、時には車での行楽・買い物・食事等に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は拘束のない介助を目指しており、居室はもとより日中玄関の出入り口は無施錠である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアル、緊急連絡網を整備し定期的に避難通路等点検すると共に、消防署と連携した防災訓練を実施している。	○	夜間の災害を想定した避難訓練実施と地域住民との協力体制構築について運営推進会議等にて検討されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接のデイサービスの調理師が栄養バランス・カロリーを考えた食事である。日々の食事量、水分摂取量はチェック表に記録されている。特に水分摂取には夜間の補水やゼリー等留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ログハウス調の造りで内部全体が木の温かみを感じる空間である。玄関には生け花が並び食堂ロビーは窓が広く、田園風景が見渡せ、壁は掲示物も少なく落ち着ける雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた置き棚、飾り物、日用品等持ち込まれ、利用者の居心地のよさに配慮している。		